

特集

平和を 継ぐために

破壊された街や犠牲となった人びとの映像に触れる
たび、心が痛みます。

世界では今も人びとの命と暮らしが脅かされる状
況が続く地域があります。

戦争が決して遠い昔の出来事でも、ひとごとでもな
いことに、あらためて気づかされました。

私たちの「今」が未来につながっています。

今、何を考え、どんな行動をとればよいのか・・・。
未来はみなさんと創っていくことができます。

広島市平和記念式典児童派遣事業をとおして、
平和について、考えてみませんか？



知る

過去の悲惨な歴史を繰り返さないためには、まず、その歴史を知ること。
そして、正しく判断できる力を身につけることが重要です。

■鶴ヶ島市平和都市宣言

平成23年8月4日に市制施行20周年記念事業として開かれた「鶴ヶ島市子ども議会」では、将来にわたり夢や希望が持てるまちづくりの実現に向けて、「わたしたちの平和宣言」が採択され、子どもたち自身が誓いを立てました。

これを受け、市は平成24年3月30日に「鶴ヶ島市平和都市宣言」を制定しました。この「宣言」は子どもたちの思いと、今ある平和が人びとの絆のもとで

成り立っている大切さを、未来へ伝えていく強い決意として表しています。

市民一人ひとりが国際社会の一員であるという自覚をもち、恒久平和の実現に向けた意識が、地域社会を含め、より多くの人に広がっていくようなまちづくりを進めることとしています。

■広島市平和記念式典児童派遣事業

鶴ヶ島市では、「鶴ヶ島市平和都市宣言」のもと、平成24年

度から平和意識啓発事業の一環として、広島市平和記念式典児童派遣事業を行っています。

今年度は、市内小学校の代表である6年生が、7月31日から8月1日の2日間にわたり、広島市に派遣されました。

参加した児童は、原爆ドーム、平和記念公園、平和記念資料館の視察などの活動を通して、国際的な視点で戦争の悲惨さ、命の尊厳、平和の尊さについて学びました（式典への一般参加は入場制限されていたため、参加を見送りました）。

鶴ヶ島市平和都市宣言(抜粋)

- 1 わたしたちは、一人ひとりの命と人権を尊重し、いじめや差別を絶対に許しません。
- 1 わたしたちは、地域の絆を深め、人を思いやり、助け合いながら地域活動に積極的に参加します。
- 1 わたしたちは、地域の人たちと協力して、犯罪や事故のない、子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまちにします。
- 1 わたしたちは、自然を大切にし、緑を増やし、人と自然が共生できるまちにします。
- 1 わたしたちは、目に見えない「放射能」という怖さをもっている「原子力」のあり方についてみんなで考えていきます。
- 1 わたしたちは、戦争と核兵器のない、誰もが幸せに暮らせる平和な社会をつくります。

私たち鶴ヶ島市民は、この誓いを真摯に受け止めます。



若い世代にとって、戦争は遠い昔の出来事になりつつあります。私たちが暮らしている平和な日本は、悲惨な戦争の歴史を乗り越えてつくられました。

伝える

広島に原爆が投下されてから77年。
今この瞬間も、世界には日常を奪われている人たちがいます。
戦争は、昔のことではありません。

■参加報告会

8月27日、西市民センターで広島市に派遣された児童たちの参加報告会が開催されました。当日は、児童の保護者のほか、たくさんの方々が来場者で西市民センター集会室の座席はほぼいっぱいになりました。

開会に続き、来賓のあいさつを聞く際には、少し緊張の面持ちだった児童たち。いざ、自分の発表の時間になると、全員が大きくはつきりとした声で堂々と感想文を読み上げました。また、自らが撮影した写真や描いた絵、様々な資料を取り入れて作成した冊子は、とても分

つなぐ

■派遣児童感想文

派遣児童たちが、被爆地・広島で「見て」「聞いて」「感じた」ことをまとめた感想文を次のページで紹介します(スペースの都合上、秘書広報課広報広聴担当で文章を編集しています。あらかじめご了承願います)。

なお、児童たちの感想文の全文は、後日、市ホームページに掲載予定ですので、こちらもぜひご覧ください。

■未来に平和をつなぐ

日本は平和な国だと言われてきました。しかし、新聞やニュースなどでは、いじめや虐待、自殺などによって、毎日のように多くの命が失われていることが報じられています。

戦争を体験した方たちは、「悲惨な戦争は二度と繰り返してはいけない」と訴えます。

過去の悲しい歴史は変えることができませんが、その「でき

時代が変わっても「平和への思い」は受け継がれています。
私たちは、この平和をずっと守っていくために、どうすればよいのかを考えなければなりません。

「ごと」をしつかり受け止め、そこから学ぶことで、未来に今までの以上に平和な社会をつくることができます。

未来は、現在との延長線上にあります。今、私たちは何を考え、どのように行動していけばよいのか…。一人ひとりが考えていくことが大切です。

「平和」について、家族や友達とあらためて考えてみてはいかがでしょうか。

- ～もくじ～
- ①原爆ドーム(栗田倫)
 - ②爆心地(秋山奏樂)
 - ③広島平和記念資料館(野龍太郎)
 - ④アオギリ(村岡奏昂)
 - ⑤後障害(高橋菫)
 - ⑥記念碑(杉田基日か)

育っています！ 被爆アオギリ2世

市では、広島市から被爆アオギリ2世の苗を譲り受け、平成24年度の児童派遣参加者が植樹し、市役所南側で育てています。



親木のアオギリは、爆心地から北東1.3 kmにある旧広島通信局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。



その後、このアオギリは昭和48年に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。

被爆アオギリ2世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切にする心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。



8月6日を知って

新町小学校 すげつ みつき 杉田 美月妃さん



1945年8月広島県と長崎県に原爆が落とされました。私はこのことを知り、原爆ドームを見たいと思っていました。そしてこの派遣で見ることができました。そこで学

んだことをお話しします。

原爆ドームは、時が止まったように骨組みしか残っておらず、写真や資料で見ていたときより迫力がありました。

原爆の子の像は、2歳で被爆した佐々木禎子さんがモチーフになっています。禎子さんのように原爆で亡くなった子どもたちの霊を慰め平和を築くためにつくられたのが原爆の子の像です。

資料館に当時のものや被爆を体験した人が描いた絵、写真があります。館内は暗いので、まわっていてもいつ涙が出るのかわかりませんでした。

広島は8月6日のことを考えるのは辛いけど、忘れてはいけないし、未来の子どもたちへ伝えていかなければいけません。まずは身の周りの人に知ってもらい、それから広がると思います。そして、多くの人に私たちは核兵器をつくらない、もたない、もちこませないということ、共に平和を広めるということを理解してもらいたいです。

広島に行って

杉下小学校 むらおか かなと 村岡 奏昂さん



広島市児童派遣事業に応募したきっかけは、8月6日のあの日に、広島になぜ原爆が落とされて、何が起ったのかを、くわしく知り、原爆の恐ろしさを皆さんに伝えよう

と思ったからです。

平和記念公園や資料館を見学して、特に驚いたことが三つあります。

一つ目は、長引く戦争を終わらせるための手段として、原爆が使用されたということです。

二つ目は、被爆してすぐではなく、後から現れる後障害によって亡くなり、現在も悩まされている人がたくさんいるということです。

三つ目は、「原爆の子の像」のモデルになった禎子さんが、闘病しながらも、病気が治ることを願い、折り鶴を折り続けていたということです。

僕は、2日間で、戦争の悲惨さや、平和の尊さを学んできました。でも、皆さんに一番伝えたいのは、やっぱり戦争をしないことがとても大切だということです。なぜなら、そもそも戦争をしなければ原爆も落とされないうし、無意味な犠牲も生まれないうからです。そのため、国と国との間で仲良くなること、また、争いではなく対話で解決をすることができれば、戦争が少なくなっていくと思います。

平和な未来を創る

鶴ヶ島第一小学校 かい りょうたろう 甲斐 龍太郎さん



想像してみてください。今、鶴ヶ島市に原爆が落ちてきたら。道が死体で埋め尽くされていたら。住んでいる家が無くなってしまったら。大好きな家族や友達と会えなくなったら。僕は嫌です。ただただ恐ろしくて、悲しくてたまりません。

広島を訪れるまでは、単純に、戦争は起こしてはいけないものとしか考えていませんでした。しかし、広島で戦争や原爆の恐ろしさを感じ、より多く、深く考えるようになりました。今、僕たちが平和に暮らせるのは、被爆者や戦争を経験した人びとが、戦争を二度と繰り返してはならないと伝え続けているからです。

広島で被爆した人は、相手にやり返そうという考えは持っていません。自分と同じ苦しみや、もう誰にも受けてほしくないという思いで、核廃絶の活動を続けている人がいます。戦争を知らない僕たちも、戦争や原爆の悲惨さを知り、恐ろしさを共感することで、戦争のない平和な世界を創ることが出来ます。僕も、平和な未来を創るために、周囲の人を思いやり、互いを認め、協力し合う行動をしていきます。

広島で被爆した人は、相手にやり返そうという考えは持っていません。自分と同じ苦しみや、もう誰にも受けてほしくないという思いで、核廃絶の活動を続けている人がいます。戦争を知らない僕たちも、戦争や原爆の悲惨さを知り、恐ろしさを共感することで、戦争のない平和な世界を創ることが出来ます。僕も、平和な未来を創るために、周囲の人を思いやり、互いを認め、協力し合う行動をしていきます。

戦争の悲惨さと平和の尊さ

鶴ヶ島第二小学校 あきやま せうら 秋山 奏楽さん



原子爆弾は、1945年8月6日午前8時15分に広島県の広島市に落ちました。「リトル・ボーイ」と呼ばれた長さ約3メートルの爆弾の影響で、半径2キロメートルにある

建物は全壊し、この年の12月までに約14万人の人が亡くなりました。また、生き残った人も白血病やがんなどの後遺症に苦しみ続けています。

原爆ドームは、このような被害が出た中で、奇跡的に形が残った建物です。建物をただ見るだけでは意味は分かりません。ここで起きたことを学ぶことで原爆の恐ろしさを知ることが出来ます。自分の近くでもし同じことが起きたらと想像すると今が平和なことがわかり、同じことを繰り返してはいけないと考えます。

戦争のない今の時代は平和です。しかし、なにもしないで平和が続くとは思いません。広島の人たちのように昔あったことを忘れずにみんなに伝えていたり、戦争をしない憲法を作ったりして、色々な人の努力で平和を守っています。僕にできることは広島で学んだ戦争の悲惨さと平和の尊さを学校のみんなに伝えることです。平和のために自分ができたいことをしたいと思います。

広島で学んだこと～戦争について～

栄小学校 たかはし あかね 高橋 茜さん



広島県に原爆が投下されたのは、今から77年前の1945年8月6日午前8時15分です。広島市街地の中心部の上空約600メートルで爆発し、一瞬にして建物が倒壊。そして、多くの人びとの命がうばわれました。私は2日間で3つの場所を見て回りました。

一つ目は、原爆ドームです。原爆ドームのほぼ真上から爆風があたったため、被爆した時のまま残ったそうです。

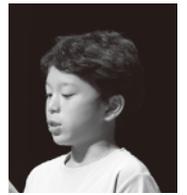
二つ目は、平和記念公園です。その中でも、印象に残ったところを紹介したいと思います。それは原爆の子の像です。私たちが近くを通ったとき、かねを鳴らしている方がたくさんいました。また、その近くには、折り鶴をささげるところがあります。原爆の子の像には、平和を願う人びとが作った、たくさん折り鶴がかざられています。

三つ目は、平和記念資料館です。資料館には、当時の様子がわかるものがたくさんあります。

今、私たちが生きていられることは当たり前だと思っていけません。私たちが今平和に暮らせているのも、戦争の時代を生きてきた人が形に残してくれたからだと思います。みなさんも、平和について考えてみませんか。

広島に行き感じたこと

藤小学校 くりた りん 栗田 倫さん



広島市は大きなビルも建ち並び、大きな駅があり、きれいで活気あふれたすてきな町でした。しかし、原爆ドームの前はいきなり静かになっていて、原爆の悲惨さがよく伝わってくる建物でした。

原爆は、広島上空の600メートルで炸裂したため、上からの衝撃だったため、大きな建造物の一部が残ったそうです。

戦争の悲惨さがよくわかったのは、広島平和記念資料館です。活気あふれる良い町を、たった一発の爆弾で爆心地から3000メートルの家を破壊してしまいました。約35万人の人が亡くなったといわれています。

記念館の最後の方に、今も残る核兵器の課題などの部屋がありました。その部屋には、広島核兵器をゼロにする努力などが書いてありました。しかし、核保有国のすべての国がこの条約に参加しているわけではありません。日本など核保有国に守られている国も参加していません。この問題を解決するには、平和がどれだけ大切か、そして核兵器はダメということを確認し一人ひとりが声をあげていくのが大切だと思いました。